

## けふはおまめさん

「あれ、なんできょうはまだあるの？」  
「やる気まんまんだからじゃないのかな？」  
「うおー！ 俄然やる気になったあっ！！」  
「…というわけで最近頃によく聴く話題のひとつとして、食品に有機物無機物を問わずいろいろな物体が挿入されている事態について縷々検討してみたいと思う」  
「挿入されているわけなの？ なにか意図的に入れられているみたい…って意図的なもの！？ なにものかの陰謀？ それとも世紀末的集団幻想？」  
「ま、入れられるに至る原因や背景は今回はおいておいて、その中でも特に注目されている…」  
「アメリカの揚げたてトカゲ入りのフライドポテトってなんかさっくり食べちゃいそうだねえ」  
「そうやっていわれると冗談スナックのようだけど、芋虫いりキムチは無農薬そうで健康志向だな」  
「ワームキャンデーとかあったよねえ、あれはやっぱ厭、精神的にあの手の虫、特にチューブワームなんかだったら考えるのも厭…」  
「？」  
「あー、考えちゃったようっ！！ きし麺が食べられなくなっちゃううっ！！」  
「ま、たしかに、ミミズなんかは食べでがなさそうだな。一匹一匹裂いて泥出しする手間もかかる」  
「いいよ、漢方の話になってくると蟻やら蚊の目玉やら食べさせられるもん」  
「しかし、特に芋虫は高蛋白でこれからの食糧危機を迎える未来には待望の新食材となるだろう。食用の蠅もあるくらいだからなあ」  
「蠅って、もしかしてその幼虫であるところの白くてわらわらいるやつ…」  
「うん、ちゃんとした餌をやって育てればクリーミーな食材としてきっとあなたの晚餐を賑わす一皿の隠し味として使われることであらう」  
「メインディッシュにはならないわけね」  
「やはりメインはローストチキンでしょう。チキンの4本の脚が供されるかわりに手羽先はないことでしょう」  
「？ うーんとお。あれが足であれがおててだからあ」  
「おい、なんかちやうぞ」  
「足ってふたつじゃないの？」  
「2本って言えな、今度から」  
「………違うのっ！」  
「ううう、いーから話を進めさしとくれ。だから今まで2本だった鶏の脚が今度から4本になる」  
「えー!? ちょうちゃんみたいに退化しちゃったのおっ!？」  
「ちやう、退化しても脚は増えん」  
「じゃあ進化………」  
「はいはい、取り敢えずそーゆーもんじゃないんだ。鶏、それもブロイラーの脚が今度から増える」  
「え、増えるの？ なんかお得」



「とにかく！ 利潤を追及する生産者にとってブロイラーにはより太ってもらわねばならない」  
「だったらフォアグラみたいに無理やり喰わすの？」  
「そんなことは人件費の無駄遣い。ブロイラーはいかに安く作るかが勝負。だから勝手にブロイラーが太ってくれば同じ経費でも目方が増えて儲けが出る。そのためには脚を4本にして安定させると、自らの支えられる目方がかなりの増」  
「でも突然変異でもそんな簡単におてては足に……」  
「おててじゃなくって、羽っ！」  
「だったらもっと難しい………」  
「そう、だから人類はその英知の結晶、遺伝子操作をもって4本足の鶏を生み出すことに成功した」  
「ふーん、そんでどーなったん？」  
「未だ試作品の状況で一般には出回っていないし、生産農家でも実験飼育は行われていない」  
「なんで？ 病気に弱いん？」  
「そんな抗生物質投与でなんとでもなる」  
「じゃあ、駆けっこがうまくなってダイエットしてしまうとか？」  
「それは今現在でも、飼育舎で動けないようにされているから関係ない」  
「じゃあ……、なんなん？」  
「うん、………今は肉鳥として必要のない部分の削除に研究段階は移っている」  
「必要ない？」  
「例えば、焼くとうまいけど肉には関係ないとさか。またあるいは小突き合いしないようにくちばし。そしてまたあるいは身体を覆っている羽毛………」  
「でもくちばししないと御飯食べらんない」  
「餌くらいちょっと細かくすれぱいい。ゆくゆくは砂のうをなくす方向で研究は着々と進んでいる」  
「そんなら足もなくなしたらいいのに………」  
「そうだ。根本的には足は限りなく短くなるか、なくなった方がいいんだけど、衛生上の都合でそれは難しい。鶏舎を完全無菌にすることとか、抗生物質投与増量で乗り切る方法も検討されたがどうもコストがかなり過ぎる」  
「………ふーん、なんか変」  
「ま、確かにブロイラーを肉塊にすることがこの研究のテーマな訳で、足のないものも恐らく一度は試されるとは思うけど………」  
「そーなるとこれのかしわが出回る時期がいつか来る訳なのかなあ………」  
「ま、肉塊つくるなら研究室の培養槽で腿肉だけ培養して収穫する方法の方が宇宙進出のことまで考えるといいかもしれないが」  
「やだなー、なんかもりもりしているやつが水槽の中に漬かっている姿を想像するのが……」  
「？」  
「うわーあ！ だからといって虫も厭っ！！」  
「というわけで今日はおまめさん」  
「遺伝子組み替えじゃない？」  
「遺伝子レベルで、虫が挿入だなあ」  
おしまい